

特集

大学院で学ぶ意味 研究者になるためのビジョン

青木裕見, 萱間真美, 新裕紀子, 中尾久子, 菊地悦子, 酒井郁子, 佐藤眞理, 吉沢豊予子,
藤原美保, 坂下玲子, 細野知子, 西村ユミ, 三田村裕子, 金井 Pak 雅子, 山内朋子,
筒井真優美, 横山麻美, 山本則子, 吉行紀子, 河野あゆみ, 山田寛, 植木信悟

【特別記事】

文化人類学と看護学—質的研究をめぐる

【文化人類学】磯野真穂 【看護学】田辺けい子, 水嶋知子

看護における知的財産活動の活性化のために—看護系大学における知的財産活動 丞村宏

【原著論文】

保健師が住民と協働するための行動意図に影響する要因の構造と

保健師に必要な支援の方向性 山谷麻由美ほか

編集後記

●本特集は企画者の中木氏が書かれている通り、2002年に『Quality Nursing』誌(文光堂)で同氏が企画された「看護と権力論」が端緒です。以来13年。中木氏が考え続けてこられたテーマの1つの大きな通過点かもしれません。医療職者の言説——非常に考えさせられます。と書きながら、言葉は難しいと改めて感じます。この編集後記ひとつとっても、言葉を選んでいきます。私は最初、上の「通過点」を「到達点」と書いて、ふと、自分が勝手に「到達」させるわけにはいかないし、事実今後も議論されるテーマと考え、修正しました。たったひとつの言葉が、一にも千にもなり、正解にも不正解にもなる。もしかしたら「到達点」でも、よかったのかもしれない？ 私たちが日々扱わせていただいているたくさんの方の原稿の言葉も、それぞれがやはりひとつの「医療の言葉」だと思います。それが多くの医療職者、当事者の方々に届くと思うと、本特集は他人事とも捉えられない気がします。●今回の表紙は、カーネーションです。(小長谷)

看護研究 第48巻 第3号(通巻259号) 2015年6月15日発行(増刊号を含め年7回発行)

発行: 株式会社医学書院 代表者 金原優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2015, Printed in Japan

販売部(03)3817-5659 社内案内(03)3817-5600 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

『看護研究』編集室: (03)3817-5775 電子メールアドレス kanken@igaku-shoin.co.jp 担当/小長谷・早田
1部定価1,900円+税

2015年年間購読料(税込, 送料弊社負担, 増刊号を含む年7冊): 冊子版13,025円 冊子+電子版/個人
16,265円 冊子+電子版/共有18,274円 電子版/個人13,025円 電子版/共有15,034円

〈学割年間購読料〉冊子版10,498円 冊子+電子版/個人13,738円 電子版/個人10,498円

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行なうことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行なうことは違法となります。

【JCOPY】出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は, そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

●編集顧問(五十音順)

小島操子

聖隷クリストファー大学・教授(学長)

中島紀恵子

新潟県立看護大学・名誉教授

中西睦子

前国際医療福祉大学・教授

前原澄子

京都橘大学看護教育研修センター・所長

南 裕子

高知県立大学・学長

●編集協力者

阿曾洋子/荒川靖子

井部俊子/蝦名美智子

太田喜久子/岡谷恵子

片田範子/金井 Pak 雅子

上泉和子/川口孝泰

河口てる子/川村佐和子

黒田裕子/高橋泰子

近田敬子/筒井真優美

水流聡子/野嶋佐由美

早川和生/舟島なをみ

村嶋幸代/森 恵美

安酸史子/山本あい子

横尾京子

看護研究バックナンバー

Vol.
48
No.
2
Mar
Apr

●特集 | 遠隔看護とイノベーション—在宅医療の新展開

遠隔看護の現在と在宅医療におけるその役割 川口孝泰
遠隔看護の歴史と研究の変遷 豊増佳子
遠隔看護におけるデバイス開発と応用事例 荒木大地遠隔看護の取り組み事例
遠隔看護の取り組み事例—慢性疾患患者のサポート 日向野香織, 柴山大賀, 林啓子, 川口孝泰
遠隔看護のクラウドベースでの実用化をめざして 川口孝泰, 豊増佳子, 西山直美, 内藤隆宏
訪問看護における遠隔看護への期待 林啓子
遠隔看護における情報教育の整備と看護師の役割 内藤隆宏, 浅野美礼
〈研究ノート〉
現象学的研究をめざす人に具体的な手掛かりを提供—『現象学的看護研究』を読んで 山本則子
〈研究報告〉
高齢者のいわゆる「おむつ皮膚炎」に対する治療アルゴリズムの提案
常深祐一郎, 福田亮子, 出口亜紀子, 川島眞
〈連載〉
混合研究法入門② 混合研究法の歴史的発展と現状 抱井尚子
Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ② 認知症患者を対象とする介入研究の難しさ 佐藤可奈
非薬物療法の効果を示すために 廣岡佳代
UCSFで看護研究を学ぶ② サンフランシスコでの留学生活 齋藤真希

Vol.
48
No.
1
Jan
Feb

●特集 | 看護研究から政策をうみだすために

A Preamble to Shaping Health Policy through Nursing Research
Patricia A. Grady, Ada Sue Hinshaw 【翻訳】緒方泰子, 深堀浩樹
NINR とは何か?—その歴史と看護研究における役割 前田留美, 深堀浩樹, 丸光恵
政策につながる看護研究の動向と今後の展望—退院支援の研究を例に 坂井志麻
政策につながる看護研究の実践—少子化社会における妊娠・出産・子育てにかかわる政策に向けた研究
福島富士子
日本の看護系大学院における教育者・研究者の養成
—看護学教育者, 研究者養成につながる行政官の活動例 石橋みゆき
【インタビュー】看護学研究者に対する国会議員からの期待 石田昌宏 【聞き手】深堀浩樹
〈連載〉
混合研究法入門①[新連載] 混合研究法コミュニティの多様性 抱井尚子
Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ①[新連載] 連載開始にあたって—何を海外の看護学研究から学ぶのか 深堀浩樹
看護の価値を主張するためには 大山裕美子
UCSFで看護研究を学ぶ①[新連載] フルブライト留学までの道のり 齋藤真希

Vol.
47
No.
7
Nov
Dec

●特集 | 看護を語る 看護を創る

「実践を語ること」と「捉えなおされた実践を語ること」—訪問看護師の家族支援と地域包括支援センター 3 職種の支援の 2 つの取り組みから 河原智江
集中治療室看護師の実践の意味 田代幸子
「うまくいかない」語りの意味—看護師が「難しい」と感じる障害児の家族とのかかわり 山本美智代
がん患者のエンド・オブ・ライフにおける認定看護師・専門看護師の看護実践の語り 福井里美
急性期病棟での緩和ケア—みなでやりきった実践の意味 守田美奈子
ケアと共感疲労—東日本大震災での救援体験をめぐる 2 人の看護師の語りから 小宮敬子
日常の看護場面においてはたらく「手」の現象学的考察—語り直すことからみえてくるもの 原澤純子
病院全体のバランスを見る—病棟看護師長の語りとその編成 西村ユミ, 前田泰樹
〈Scope〉
第 8 回 ICN INP/APNN カンファレンス報告—海外の Advanced Practice Nurse の動向
鈴木美穂, コリー紀代
〈連載〉
統計学のキー・ポイント—「検定」に焦点を当てて・6 [最終回] 対応のある場合の 2 グループの有意差検定 高木廣文
Words, words, words. 研究と言語—質的研究のために⑧ [最終回] 研究でやってはいけない 4 つのこと 江藤裕之

